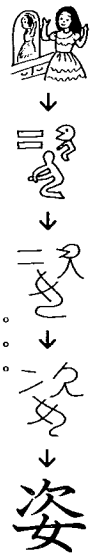


姿

六年 筆順 次 姿
クシ すがた

成り立ち



「先に立つことをせず、人にゆずる」という意味を表した「次」(年3313)と、「女」という字とを組み合わせて作った字です。

「先に立たず、人にゆずる」という女の美しい「すがた」を表した字です。

「すがた」という意味に使われています。

使い方

▽自分の姿を姿に映して、いつもきちんと整った姿を保つように努めることは、人として大切な事だと思えます。

▽姿勢の悪い人は、健康をそこね、また、精神的にも消極性におちいりがちです。姿勢を正しく保つように常に気をつけましょう。

熟語例

▽姿見(姿を映して見るための大型の鏡。全身が映るような大きな鏡のことです。)

▽姿勢(勢は「様子」有様)。「体の構え方」を言います。また、「態度」の意味にも使います。例この困難を乗り越えるためには、きびしい姿勢で臨むことが必要です。

▽雄姿(雄々しい姿。りつばな男らしい姿)

▽容姿(容〔年583〕も「姿」の意味。「顔つきや姿」の意味に使われます。例容姿端麗の美人)

▽英姿(英〔年445〕は「目立ってりつば」なこと。目立ってりつばな姿)

▽勇姿(勇ましい姿)

視

六年 筆順 視
クシ ねね

成り立ち



「神」の意味を表した「ネ」と、「見」という字とを組み合わせて作った字です。

神様のお祭りをする時には、手落ちがないように「気をつけて見る」ものですから、「気をつけて見る」という意味を表しました。

「念入りに見る」「注意深く見る」という意味の字です。

〔日本語では「みる」の一語しか無いが、外国語では漢字の「見、看、視、観、覧」や、英語の「see、look、inspect、observe、glance」のように、「いろいろな見方の「みる」がある。これらの翻訳は「注意深く見る」というように修飾語をつけて訳す必要がある。〕

使い方

▽言葉を聴覚言語と対して、漢字は視覚言語とすることが出来ます。漢字は「目で見る言葉」なのです。

▽視界が全く見えざられていた山道を登りつめると、たんに視界が広がり、美しい景色が目にとびこんで来ました。

熟語例

▽視覚(物を見るとき。聴・味・嗅・触の四覚と合わせて五覚〔五感〕と言います。)

▽視界(目に入る世界。「見わたせる範囲」という意味のことばです。)

▽視野(「視界」と同じ意味。「目のとどく範囲」。また、「物の見方や考え方」の意味にも使われます。例あの人には視野のせまい人だ。)

▽凝視(目を凝らして見ること。じっと見つめること。)

▽正視(正面からまっすぐに見ること。まともに見ること。例事故のすごさは正視に耐えませんでした。)

▽軽視(人や物事を軽く見てばかにすること。例敵は組織しやすいと軽視してはいけません。)